

京都美術館竣工

三ヶ年の日子と百餘萬圓の工費を投じて京都市岡崎公園南側平安神宮の朱塗りの大鳥居の前に壯麗優雅を極めた美術の殿堂、京都市が御大典記念事業として計畫した京都美術館は此程竣工、十一月十三日竣工式を舉げた。

此建築は優秀なデザインを廣く國內から求める爲に懸賞募集した結果、東京市の前田健二郎氏應募設計圖案が一等の選に入り、大體この設計に基き京都市營繕課に於て更に各方面より慎重に調査研究の上設計を完了、工事は清水組京都支店が之に當り、監督一切は市役所營繕課が従事し、三ヶ年の日子を経て今日晴れの竣工式を迎へたものである。

東京市臨時建設部

東京市では今回市廳舎建設地を月島第四號埋立地に決定すると共に連日その實現を期すべく着々準備を進めてあるが何しろ總工費九百萬圓以上になる大廳舎のことゝて慎重な態度で臨み先づ今回市土木局内に臨時東京市廳建設部を新設同部長には現市第三助役鷺尾弘準氏同部内工務課長には現建築課長小野二郎氏庶務課長には穴津藤作氏を兼務させ萬全を期することゝなつたが、目下同部では審査員の選定中で之が決定次第審査委員會を開き愈々懸賞募集設計規定につき協議し一般に發表されることゝなつてゐる。

磐城セメント七尾工場増設

滿洲國における土木事業の隆盛でセメントの大量注文あり内地各セメント会社では非常な活況を呈してゐるが今回更に十五萬樽の注文あり去る四日大阪

市においてセメント協會の會議を行つた結果磐城セメント七尾工場が引うけることとなり七尾工場では工場の増設工事を急いでゐるが十二月初旬竣工の豫定である、現在同セメント七尾工場における生産能力は一ヶ月一萬七千樽なので今回の注文は約一ヶ年の生産高に相當するので同工場は俄に活気づき従業員は何れも雀躍してゐる。

今年度着工の改築驛

鐵道省では九年度以降に於て積極的に全國腐朽驛の改築を行ふ意向を有しこのほど各鐵道局に該當驛の調査を命じたが、今年度中に着工の豫定或は九年度以降に着手すべきもので本省に於て設計中のものは次の通りである。

本年度中に着工、小樽驛、奈良驛、酒田驛—何れも九分通り設計終了△九年度以降 本省廳舎—六分通り設計完成、既報の通り地上八階、地下一階一部二階、工費九百萬圓、名古屋驛—近々設計完了、近々設計問題が提出されるはず、地上五階、地下一階、工費五百萬圓、大阪驛—ステーションホテルを設けるか否か未決定のため設計進行せず但し高架下の工事完了の上着手されるため十年度になる見込み△改築計畫中のもの 静岡、秋田、青森、沼津各驛

室蘭埠頭設備完成

東洋一の稱ある北海道室蘭の海陸連絡設備は、トランスポーター、ミール、カーダンパー、ローダー—夫々完備し、昭和三年來四百三十萬圓を投じた、前期の工事も、こゝに豫定通り十一月中に全く、完了するが、十二月早々に此の綜合的試運轉を行ふ筈で、此の石炭積込機が全機能を發揮する時は十時間に約一萬二千噸の石炭を積む事が出来るもので、同設備の完成は室蘭埠頭の偉業として、また其の活動は、今後高架棧橋に代つて、非常な貢獻をするものと見られてゐる。

名古屋市の新下水工事

名古屋市では工場誘致と中川運河沿岸の工場地帯の發展を促進するため中川運河から堀川までの地域と築港から名古屋貨物驛附近に至る一帯の地域三百萬坪に亘り、七年度から七ヶ年繼續工費七百二十五萬圓を以て下水工事を實施することゝなり既に設計を完了目下財政計畫の立案中である、中川下水處理

場は中川運河開門附近に新設汚泥沈下装置によつて浄化し名古屋港に放流する設計で、これによつて同處理場では一日二百五十トンの汚泥を生ずるので庄内川河口に新設される寛政汚泥處理現場にポンプで壓送し乾燥肥料として販賣する計畫である。

日電鐘釣發電所計畫

日本電力株式會社が富山縣黒部峽に建設せんとする鐘釣發電所(黒部川第二發電所)は總工費二千百萬圓と云ふ巨額を算し土木費のみでも七百萬圓に上る正に近來稀有の大土木工事である、同社土木部工務係では此の設計一切を完了して去る六日一流請負業者六社を指名してそれぞれ圖面仕樣書の交附を終ると共に指名請負業者を招致して兩三日に亘つて現場説明を行つた。

此の鐘釣發電所は曩に同社が完成した柳河原發電所(出力五萬七千KW)よりも更に黒部川を上流に遡つた猶又——小屋平間六杆に隧道式の水路を設け又小屋平の堰堤には雪國獨特の新考案も廻らす等の方法に依り出力六萬五千KWと云ふ我國最大を旨すものである、工期は三ヶ年昭和十一年一杯を以て竣工の豫定となつてゐる。

信濃川本流堰止工事

信濃川電氣事務所では取水口堰堤左岸部工事施工に伴ふ本流堰止工事は二日栗原、間、鐵道工業、西松、鹿島、西の六社指名の上入札に附された結果三十四萬七千八百圓を以て現在右岸部工事の栗原源藏氏に落札した、竣工は明年夏の豫定である。

安積疏水路改修着工

福島縣安積疏水組合では協議會を開催して、かねて計畫中の同疏水第五分水路以下二十番隧道より三十五番竪道に至る十五隧道の改修問題を協議した結果、九年度に於て工費四十五萬圓で改修を行ふことに決定した。

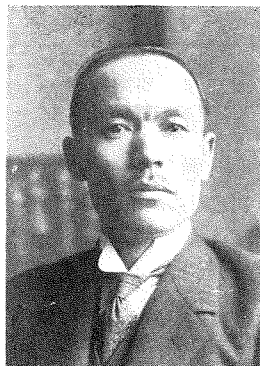
神戸裏山開發工事

工費五十餘萬圓で工事中の神戸裏山開發土木事業は八年度は二十二萬餘圓、九年度は三十萬圓餘の豫算であるが、目下第一工區である修民教養所から城ヶ口を経て鐵山西側に至る延長1580米の土工は殆んど完成し、第二工區の半分位を残してゐるが年内に

は八年度分は全部竣工する豫定で追谷墓地より城ヶ口谷へ迄の隧道も豫定通り運んでゐるので昭和九年末頃には幅七米延長 6,200米鹽ヶ原に至る坦々たる大自動車道路が豫定通り竣工する譯である。

富山縣貯水池第一期工事

富山縣が二十五萬圓の巨費を投じ西礪波郡美山村吉見谷に建設中であつた小矢部川沿岸用水補給の貯水池は第一期工事だけ竣工去る九日關係當局の検査を終つた第二期工事の溜池塗上げ工事は明春雪解けを待つて着工の豫定でこれが第一期工事の貯水池構築に要した工事費は十五萬圓である。



來島良亮氏逝去 今秋各府縣の土木部課長大交迭のあつた際に東京府土木部長たりし來島氏が内務省技師に戻られにのは少々意外とする處であつたが、其交迭後の間もない十一月二十二日病氣の爲め東京の自邸で逝去

された。享年四十九歳。

來島氏は本年五月の土木學會エキスカージョンにも參會し一行と共に元氣に箱根の地入り地點など視察されたものであつたが、人生とは言へ實に惜しい事である。

來島氏は明治四十五年東京帝大工學部土木科を卒業後内務省に入り、秋田縣雄物川改修工事を擔當し、かつては秋田市會議員として市政に參與した事もある。昭和二年東京府土木部長となり以來六ヶ年餘東京府土木事業の進展に努力し、特に都市計畫の大事業に氏の功績は大なるものがある。病革まるや特に北海道勅任技師に兼任された。

告別式は十一月二十五日青山齋場に於て佛式により舉行され、官民多數名士の參列があつた。

鶴田徳子嬢逝去 鶴田勝三氏二女徳子嬢は腎臟病の爲永く療養中であつたが、十一月十四日午前九時自宅に於て遂に逝去された。徳子嬢は東京女子高等師範附屬女學校出身の才媛で本年二十四歳であつた。葬儀は十六日午後一時より芝青松寺に於て執行せられ荒木陸相其他朝野知名の士多數參列された。同日青山墓地にて埋葬せられた。